

女子学生の食生活満足度に及ぼす要因

足立 蓉子

(山口女子大学家政学部)

平成元年 5 月 15 日受理

Analysis of Degree of Satisfaction with Dietary Life
among Female Students

Yōko ADACHI

Faculty of Home Economics, Yamaguchi Women's University, Yamaguchi 753

Dietary satisfaction of female students and the factors affecting it have been investigated using a questionnaire for 647 students in Yamaguchi Women's University. They were analyzed by use of Hayashi's quantification II method and the results are summarized below.

One of the factors which affects the dietary satisfaction is dietary habit including taking breakfast regularly and taking various foods. The another factor is the residential environment, that is, the living in a boarding gives a lower score than the living in their home or in dormitories. Preference of cooking is highly contributed to the dietary satisfaction among the female students. Likewise, the faculty to which they belong, consciousness of dietary, character of individuals are related slightly to the dietary satisfaction among the female students.

(Received May 15, 1989)

Keywords: dietary satisfaction 食生活満足度, dietary life 食生活, female students 女子学生, Hayashi's quantification II 林の数量化 II 類.

1. 緒 言

現在のわが国は物が豊かにあふれる食環境において食事内容が変化し、あらためて食生活のあり方が問われている。同じ食事食べても人により評価が異なることはしばしば経験する。そこで食事の評価指標として摂取栄養量とともに食べる人の総合的評価が、価値観の多様化している今日においては重要であると考えられる。女子学生を対象にした食生活調査^{1)~7)}はさまざまな形で行われているが、食生活と健康や生活状況との関連を考察したものが多く、しかし、食べる人の食に対する満足度という視点でとらえたものは比較的少ない。

そこで、次の時代をにやう 18~21 歳の女子学生を対象に調査を行い、実証的立場から、将来にわたり健康な生活を営むための食のあり方を考察しようと試みた。本報告では、食べる人の食に対する視点を総合的に把握するための指標として、食生活の満足度を用いた。そして満足度に影響を与えると考えられる食生活の状況や食

活に対する意識・態度などの要因と、その構造を考察するために林の数量化 II 類を用いて分析した。

2. 方 法

(1) 対 象

山口女子大学在学学生 647 人 (2 学部 4 学科により構成され、1 学科の学生定員は 40 人) である。

(2) アンケート調査

調査時間は 1986 年 12 月。調査方法は質問紙による自己記入法を用い配票留置法によった。回収率は、96% で有効サンプル数は、620 であった。その内訳を表 1 に示した。なお、学年別の人数は各学科ともほぼ同数であった。学年別の居住形態の特徴では寮生は 1 および 2 年生のみであった。

調査内容の項目では、一つは食生活の満足度に関するもの、もう一つは満足度に影響すると考えられる要因に関するものである。

表 1. 調査対象者の内訳

居 住 形 態	文 学 部		家政学部		合 計
	国 文	児 童 文 化	食 物 栄 養	被 服	
下 宿	100	110	112	101	423
寮	25	24	30	18	97
自 宅	23	24	16	37	100
合 計	148	158	158	156	620

① 満足度に関する調査項目は、食生活に満足しているかどうかという本人の総合された判断を満足度の指標として設定した。そして満足度の程度は、満足であるに5点、どちらかといえば満足であるに4点、どちらともいえないに3点、どちらかといえば不満であるに2点、不満であるに1点を与え、それぞれの人の満足度とした。

② 満足度に影響を与える要因の調査項目は、予備調査の結果から基本属性、食品摂取状況、食生活に対する意識・態度、健康状態、性格および経済についての28の質問項目を設定した。

③ 調 査 票

〔問 1〕

1. あなたの日常の食生活についてお答えください。
次の各問について「はい」または「いいえ」のうちい
づれか該当するものを○で囲んでください。

(1) 朝食はほとんど毎日きちんと食べますか

1. はい 2. いいえ

(2) ほとんど毎日、にんじんやほうれん草など緑や黄
色の濃い野菜を食べますか

1. はい 2. いいえ

(3) ほとんど毎日、生野菜を食べますか

1. はい 2. いいえ

(4) ほとんど毎日、果物を食べますか

1. はい 2. いいえ

(5) ほとんど毎日、肉、魚または卵を食べますか

1. はい 2. いいえ

(6) ほとんど毎日、牛乳を飲みますか

1. はい 2. いいえ

(7) チーズ、スキムミルクなどを1日1回は食べま
すか

1. はい 2. いいえ

(8) 油を使った料理を1日1回は食べますか

1. はい 2. いいえ

(9) 昆布、わかめ、のりなど海藻を1週間に3回以上
食べますか

1. はい 2. いいえ

(10) いも類を1日1回は食べますか

1. はい 2. いいえ

2. あなたは自分の食生活に満足していますか

(1) はい

(2) どちらかといえば はい

(3) どちらともいえない

(4) どちらかといえば いいえ

(5) いいえ

〔問 2〕

1. 料理をするのが好きですか

(1) はい

(2) どちらかといえばはい

(3) どちらともいえない

(4) どちらかといえばいいえ

(5) いいえ

2. 1カ月の食費は、どのくらいですか（コンパなど
の飲食費は除く）

(1) 1万円未満

(2) 1万円～1万5千円

(3) 1万5千円～2万円

(4) 2万円～2万5千円

(5) 2万5千円～3万円

(6) 3万円以上

3. あなたの外食の割合をお答えください（夕食につ
いて）

(1) 週3回以上

(2) 週1～2回

(3) 月2～3回

(4) 年数回

(5) ほとんどしない

4. あなたの味の好みは、いかがですか

(1) 濃い

(2) どちらといえば濃い

(3) どちらともいえない

(4) どちらかといえば薄い

(5) 薄い

5. 加工食品を買うとき、どのような点にいちばん注
意しますか

(1) 食品添加物の表示

(2) 製造年月日

(3) 原材料の内容

(4) 栄養成分の内容

(5) 作り方

(6) その他

女子学生の食生活満足度に及ぼす要因

6. 今までに使ったことのない加工食品が店に出ているらどうしますか

- (1) すぐ買ってみる
- (2) パッケージなどをみて興味があったら買う
- (3) 試食をしてみてもう
- (4) 評判を聞いてから買う
- (5) 買わない
- (6) その他

〔問3〕あなたの食生活についてあてはまるものに○をつけてください。なお、1. はい、2. どちらかといえばはい、3. どちらともいえない、4. どちらかといえばいいえ、5. いいえ、とします。

1. 空腹を満たすことを第一と考えて食事をしている (1, 2, 3, 4, 5)
2. 外食するときなど健康を考えてメニューを選んでいる (1, 2, 3, 4, 5)
3. 食事を作るときは栄養のバランスに気をつけている (1, 2, 3, 4, 5)
4. 食事の雰囲気づくり(花を飾るなど)に気をくばっている (1, 2, 3, 4, 5)
5. 献立に変化をつけるように心がけている (1, 2, 3, 4, 5)
6. 料理を作るのに時間や手間をかける (1, 2, 3, 4, 5)
7. 時々、デザートやおやつを手作りする (1, 2, 3, 4, 5)
8. 料理の本を見て、新しい料理に挑戦することもある (1, 2, 3, 4, 5)

〔問4〕あなたの将来の食生活を予想してあてはまるものに○をつけてください。なお、1. はい、2. どちらかといえばはい、3. どちらともいえない、4. どちらかといえばいいえ、5. いいえ、とします。

1. 家族の健康や栄養のバランスを考えて食事作りをしたいと思いませんか (1, 2, 3, 4, 5)
2. 自分の好みより夫や子供の好みを優先して料理を作りたいと思いませんか (1, 2, 3, 4, 5)
3. 食事の雰囲気づくりや献立に変化をつけることに気をくばりたいと思いませんか (1, 2, 3, 4, 5)
4. 時間のあるときは保存食(ジャム、佃煮など)を作りたいと思いませんか (1, 2, 3, 4, 5)
5. わが家ならではの味をだいじにしていきたいと思

いますか (1, 2, 3, 4, 5)

6. わが家の料理や食事のしかたは子供にも伝えていきたいと思いませんか (1, 2, 3, 4, 5)

※最後にあなたのことについてお答えください。あてはまるものに○をつけてください。

健康状態はいかがですか(よい、わるい)

居住形態(下宿、寮、自宅)

学科(国文、児文、食物、被服)

学年(1年、2年、3年、4年)

お名前()

(3) 性格検査

Y-G 性格検査(一般用)⁸⁾を用い、Y-G プロフィール 5 類型に分類した。

(4) 官能検査

五味識別力は、検液として0.4%ショ糖溶液、0.13%食塩溶液、0.005%酒石酸溶液、0.005%グルタミン酸ナトリウム溶液および0.0004%硫酸キニーネ溶液を用いて五味識別テストを実施し、正解数をもって点数とした。

濃度弁別力は、3組のショ糖溶液を用いた。検液として1.0と1.5%、3.0と3.5%および4.0と5.0%ショ糖溶液について濃度弁別テストを実施し、正解数をもって点数とした。

(5) 分析方法

各調査項目について単純集計を行い、必要に応じ項目間のクロス集計結果について χ^2 検定を行った。つぎに質的な要因によって質的な外的基準を判別するための統計的手法である林の数量化Ⅱ類⁹⁾を用いて満足度に影響を及ぼす要因の分析を行った。

3. 結果と考察

(1) 結果の概観

食生活に対する意識・態度についての単純集計結果を表2に示した。結果をわかりやすくさせるために満足度に影響を及ぼす項目を太字で示した。なお、加工食品を買うときの注意点に対するその他の回答としては価格、メーカーおよび別に注意しないなどがあった。つぎに、使ったことのない加工食品が店に出ているらどうしますかとの問いに対するその他の回答には具体的な記入はなかった。また、食費の回答については下宿生は1万円未満が5%、1万～1万5千円が30%、1万5千～2万円38%、2万～2万5千円20%、2万5千円以上7%であった。寮生は全員1万5千～2万円の回答であり、

表 2. 食生活に対する意識・態度の単純集計結果

	は い	どちらかとい えはい	どちらとも いえない	どちらかとい えはい	いいえ	
料理をすることが好き	206	234	130	29	21	
味の好みは濃い	54	210	164	166	26	
空腹を満たすことが第一	75	256	164	73	52	
外食のときに健康を考える	35	125	134	180	146	
栄養バランスに気をつける	124	267	128	74	27	
食事の雰囲気づくりに配慮	18	77	135	200	190	
献立の変化を心がける	117	225	156	67	55	
料理に時間や手間をかける	58	151	238	123	50	
デザートを手作りする	134	203	77	108	98	
新しい料理に挑戦する	225	220	76	59	40	
家族の健康を考えたい	452	158	9	0	1	
家族の好みを優先したい	120	267	184	31	18	
食事の雰囲気に配慮したい	351	235	31	2	1	
保存食を作りたい	310	201	61	39	9	
わが家の味をだいじにしたい	382	173	56	4	5	
わが家の料理を伝えたい	286	185	119	18	12	
加工食品を買うときの 注意点	食品添加物 49	製造年月日 438	原 材 料 55	栄養成分 14	作 り 方 24	そ の 他 40
使ったことのない加工食品が店に出 ていたら	すぐ買う 14	興味があっ たら買う 353	試食して 買う 22	評判をき いて買う 144	買わない 71	そ の 他 16
外食の割合（夕食）	週 3 回以上 11	週 1～2 回 110	月 2～3 回 365	年 数 回 93	ほとんどしない 41	

n=620. 太字：満足度に影響する項目

表 3. Y-G 性格検査の単純集計結果

性 格 類 型				
A	B	C	D	E
128	103	82	242	65

n=620. 太字：満足度に影響する項目

表 4. 官能検査の単純集計結果

	正 解 数					
	0	1	2	3	4	5
五 味 識 別	12	68	112	149	84	195
濃 度 弁 別	53	215	223	129	—	—

n=620

自宅生は無回答であった。健康状態の回答は 98 % が「よい」であった。

性格検査の結果は表 3 に示した。学科別にみると国文

学科が他の 3 学科に比べて D 類型が少なく、E 類型が多い傾向がみられた。学年別にはほとんど差はみられなかった。

官能検査の結果は表 4 に示したとおりである。五味識別テストについては学科別にみると、食物栄養学科の 5 問正解数が他の 3 学科に比べて高い傾向が認められた。しかし学年別の差はみられなかった。また居住環境別にも差はみられなかった。濃度弁別テストの結果においても五味識別テストと同様の傾向がみられた。つぎに五味識別テストおよび濃度弁別テストそれぞれについて、表 2 に示した 19 項目とクロス集計を行ったが関連はみられなかった。

つぎに、クロス集計で特徴のみられた居住形態別の結果について考察する。

(2) 居住形態別の満足度の特徴

居住形態別の満足度分布は表 5 に示したように下宿、寮および自宅のどの組合せについても有意差が認められ

女子学生の食生活満足度に及ぼす要因

表 5. 居住形態別の満足度分布

	満 足	どちらかとい えば満足	どちらとも いえない	どちらかとい えば不満	不 満
下宿生, $n=423$	26 (6.1)* ¹	98 (23.2)	132 (31.2)	102 (24.1)	65 (15.4)
寮 生, $n=97$	56 (57.7)	34 (35.1)	5 (5.1)	2 (2.1)	0 (0)
自宅生, $n=100$	38 (38)	39 (39)	17 (17)	4 (4)	2 (2)
合 計, $n=620$	120 (19.4)	171 (27.6)	154 (24.8)	108 (17.4)	67 (10.8)

¹ () 内の数値は %。 $p < 0.05$, ** $p < 0.01$

表 6. 食品摂取状況の項目別肯定回答結果

	項 目									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
下宿生, $n=423$	226 (53)*	162 (38)	181 (43)	212 (50)	319 (75)	146 (35)	51 (12)	304 (72)	177 (42)	46 (11)
寮 生, $n=97$	87 (90)	91 (94)	97 (100)	75 (77)	94 (97)	90 (93)	7 (7)	97 (100)	75 (77)	33 (34)
自宅生, $n=100$	81 (81)	65 (65)	67 (67)	77 (77)	98 (98)	44 (44)	10 (10)	93 (93)	75 (75)	24 (24)

* () 内の数値は %。項目 1: 朝食はほとんど毎日きちんと食べますか, 2: ほとんど毎日, にんじんやほうれん草など緑や黄色の濃い野菜を食べますか, 3: ほとんど毎日, 生野菜を食べますか, 4: ほとんど毎日, 果物を食べますか, 5: ほとんど毎日, 肉, 魚または, 卵を食べますか, 6: 牛乳をほとんど毎日, 飲みますか, 7: チーズ, スキムミルクなどを1日1回は食べますか, 8: 油を使った料理を1日1回は食べますか, 9: こんぶ, わかめ, のりなど海藻を1週間に3回以上食べますか, 10: いも類を1日1回は食べますか

た。とくに下宿生の満足度が寮生および自宅生に比べて低いといえる。下宿生の満足度が低い理由としては、回収時の下宿生の話などから1人で食事をするので楽しくないことが多い、台所の形態や調理器具の不備、購入材料の種類が限定される、また1人分を作ることがむずかしく多くできたときは同じものを何度も食べなければならないなどが考えられる。

(3) 居住形態別にみた食品摂取状況

食品摂取状況について項目別の肯定数を居住形態別に表6に示した。食品摂取状況の質問項目は国民栄養調査¹⁰⁾の「食生活状況調査票の質問1」によった。項目5と項目8の2項目は下宿生は72~75%, 寮生および自宅生は83~100%が「はい」の回答であった。この結果から料理では主菜となるもの、調理法としては揚げ、

炒めるなどの油料理の頻度が高いことも考えられる。また、項目2と項目3は下宿生が寮生と自宅生に比べて低いことから、野菜を使った副菜が下宿生では乏しいことも考えられる。

また、項目7と項目10の2項目は他の項目に比べて「はい」の回答率が低いのでこれらの項目について考察する。項目7については下宿生、寮生、自宅生ともに10%程度であることから乳製品の摂取状況が低いといえる。しかしながら、寮生は項目6の回答が93%であることから、牛乳の摂取状況はよいといえる。項目10については下宿生の回答率が最も低かった。

つぎに項目1は寮生、自宅生ともに80%以上が「はい」の回答であるが、下宿生は53%であった。1日の生活の始まりであり、生活リズムの指標ともいえる朝食

表 7. 食品摂取状況の平均値と標準偏差

	満 足	どちらかとい えば満足	どちらとも いえない	どちらかとい えば不満	不 満
下宿生, $n=423$	$6.12 \pm 1.97^{*1}$	5.40 ± 1.75	4.33 ± 1.89	3.60 ± 1.88	3.30 ± 1.95
寮 生, $n=97$	7.86 ± 1.33	7.47 ± 1.95	7.20 ± 1.47	8.00 ± 0	—
自宅生, $n=100$	7.32 ± 1.47	6.26 ± 1.55	4.88 ± 1.78	4.50 ± 0.87	5.50 ± 0.50
合 計, $n=620$	7.31 ± 1.66	6.01 ± 1.77	4.49 ± 1.93	3.71 ± 1.93	3.37 ± 1.96

*1 平均値 ± 標準偏差

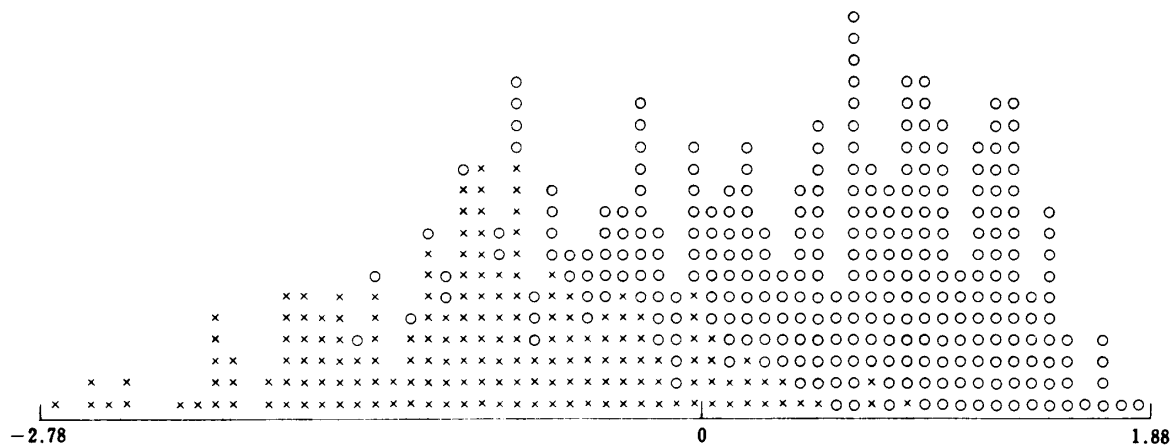


図 1. 満足・不満グループのスコアヒストグラム

○ 満足, x 不満

を下宿生では約半数しか食べていない結果から, きちんと食事をするのが1人暮らしの場合は, おろそかになりやすいことを示唆するとも考えられる。

10項目のうち, 70%以上が「はい」の回答であった項目数は下宿生では2項目, 寮生では8項目, 自宅生では5項目であった。

つぎに, 10項目についてそれぞれ「はい」の回答に1点, 「いいえ」の回答に0点を与え, それぞれの人の合計点を食品摂取状況とし, 居住形態別・満足度グループ別1人あたりの平均値と標準偏差を表7に示した。

全般的に満足度の高いグループが低いグループより食品摂取状況の平均値が高い傾向が認められる。

また, 下宿生は寮生および自宅生に比べ, いずれのグループにおいても平均値がかなり低かった。

本調査結果と少し古いが国民栄養調査¹¹⁾における18～24歳の結果を比較すると, はほぼ同じような傾向が認められた。

(4) 食事満足度に影響を及ぼす要因

つぎに, 食事満足度の構造を明らかにするために林の数量化Ⅱ類による分析を行った。

満足度の5段階尺度による回答を満足, ふつう, 不満の3群, つまり満足およびどちらかといえば満足を満足群 ($n=291$), どちらともいえないをふつう群 ($n=154$), どちらかといえば不満および不満を不満群 ($n=175$) とした。そのうち, 満足群と不満群にしぼって, これら2群を外的基準として林の数量化Ⅱ類による分析を行った。

なお, 要因の精選は次の方法をとった。すなわち表1に示した居住形態, 所属学科および学年, 表2の19項目, 表3の性格, 表4の官能検査2項目, 表7に示した食品摂取状況および健康状態と食費の28要因についてステップワイズ方式で林の数量化Ⅱ類による分析を行い, 各要因の偏相関係数と範囲に留意し11要因, 41カテゴリーを選定した。その結果を図1と表8に示す。

図1は満足と不満のスコア(個体数量)を求めてプロットしたものである。重なりはあるが値の小さい順に不満(x), 満足(O)が分布している。相関比は0.521であり, 要因数(11)とサンプル数(466)から判断してかなり高い判別力をもつといえよう。

表8から食生活満足度には食品摂取状況, 居住形態や所属学科などの基本属性, 食生活に対する意識・態度お

女子学生の食生活満足度に及ぼす要因

表 8. 食事満足度に影響を及ぼす要因

要 因	カテゴリー	度数	カテゴリー 数 量	範 囲	偏相関係数
食品摂取状況	0～3 点	105	-0.903	1.398	0.432**
	4～5 点	124	-0.183		
	6～10 点	237	0.496		
居住形態	下宿	291	-0.316	0.925	0.330**
	寮	92	0.450		
	自宅	83	0.609		
料理を作ること	きらい	17	-0.744	0.991	0.232**
	ややきらい	23	-0.734		
	どちらともいえない	93	-0.184		
	やや好き	168	0.034		
	好き	165	0.247		
所属学科	国文	116	0.222	0.537	0.201**
	児童文化	111	0.144		
	被服	112	-0.015		
	食物栄養	127	-0.315		
	献立の変化に心がける	46	-0.235		
献立の変化に心がける	いいえ	46	-0.235	0.565	0.167**
	まあまあいいえ	47	-0.414		
	どちらともいえない	111	-0.061		
	まあまあはい	174	0.151		
	はい	88	0.122		
外食のメニュー選びのとき 健康を考える	いいえ	252	0.105	0.268	0.117*
	どちらともいえない	99	-0.077		
	はい	115	-0.164		
性格類型	A 類型	99	-0.087	0.350	0.111*
	B 類型	76	-0.124		
	C 類型	65	0.227		
	D 類型	178	0.029		
	E 類型	48	-0.039		
わが家の料理や食事の しかたを伝えていきたい	いいえ	23	0.184	0.303	0.069
	どちらともいえない	87	-0.119		
	はい	356	0.017		
自分の好みより夫や 子供の好みを優先する	いいえ	36	-0.116	0.163	0.061
	どちらともいえない	144	-0.064		
	はい	286	0.047		
料理を作るときに時間と 手間をかける	いいえ	126	-0.105	0.154	0.060
	どちらともいえない	172	0.049		
	はい	168	0.029		
新しい料理に挑戦する	いいえ	73	0.107	0.132	0.042
	どちらともいえない	59	0.007		
	はい	334	-0.025		
不 満		175	-0.931		
満 足		291	0.560	相 関 比	0.521

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$

よび性格などが相互にかかわりあって影響を及ぼしていると考えられる。

各要因の規定力の程度は偏相関係数あるいは要因内のカテゴリ数量の範囲により知ることができる。本分析におけるカテゴリ数量は大きいほど満足度を促進するといえる。

そこで各要因別に満足度への寄与の程度を考察した。

1) 食品摂取状況

範囲と偏相関係数が最も高く、したがって満足度に強い規定力をもつと考えられる。「6点以上」のカテゴリが、食生活の満足度を促進している。「4～5点」さらに「0～3点」と点数が低くなるに従ってカテゴリ数量がマイナスに増加していることは注目に値すると思われる。昭和62年版国民栄養調査結果¹²⁾によると、食品摂取状況と栄養摂取量の割合との関係では、点数の低い者、すなわち摂取食品の種類が少ない者ほど栄養摂取量も少なく、ビタミンやミネラルが不足しているという傾向がみられる、となっている。これらの結果とあわせて考えると点数が高い人ほど栄養摂取量が満たされていると考えることもできる。つまり栄養バランスのとれた食生活をしているともいえる。さらに日常の食品摂取状況が食生活に対する意識のあらわれであろうと考えると、食事を大切にしようとする意識が献立のバリエーションなど食事の質的な充実となり、その結果が満足度に対する意識とかかわっているのではないかと考えられる。満足度と食品摂取状況との関係は高齢者の場合についても同様の結果¹³⁾が得られている。つまり、女子学生、高齢者ともに「朝食をきちんと食べる」や「多様な食品を摂取」など食生活の基本が守られていることが満足度を促進するといえる。今日のように食べ物が豊かにあふれている食環境においても、食事は毎日の基本的な積み重ねが大切であることを示唆するものであろう。健康づくりのための食生活指針を裏づける結果とも考えられる。

2) 居住形態

「寮」と「自宅」のカテゴリが満足度を促進し、「下宿」のカテゴリは不満を促進した。下宿生では居住形態別の満足度の特徴で述べたようなさまざまな制約が相乗されて、不満を促進する結果にあらわれたのであろうと考えられる。またさらに報告¹³⁾した高齢者の独居世帯において食事満足度が低かった結果とあわせて考えると、女子学生は高齢者とは異なった調査対象ではあるが、1人で生活することと満足度が低いという共通点がみられ、興味深い結果といえる。

3) 料理を作ること

料理を作るのが「好き」および「やや好き」のカテゴリが満足度を促進する。料理が好きであれば食事作りにも興味を持ち、その結果が食事内容にもあらわれて満足度を促進することになるのであろう。

4) 所属学科

「国文学科」と「児童文化学科」のカテゴリが満足度を促進し、「食物栄養学科」と「被服学科」のカテゴリが不満を促進した。それぞれが所属する集団の特性や専攻領域による食事観の違いを反映したものと推測される。

5) 献立の変化に心がけている

カテゴリでは「はい」と「まあまあはい」の回答が満足度を促進し、「いいえ」、「まあまあいいえ」および「どちらともいえない」の回答は不満を促進した。つまり、食生活を積極的に考える姿勢が食事への満足度とかかわっているであろう。

6) 外食でのメニュー選びのとき健康を考える

「いいえ」のカテゴリが満足度を促進し、「はい」と「どちらともいえない」のカテゴリが不満を促進した。外食の場合健康志向とは必ずしも整合しにくい食事内容の面もあることが考えられる。また、外食へのニーズの違いに由来するのではないかと考えられる。

7) 性格類型

Calm Type といわれるC類型と Director Type といわれるD類型のカテゴリが満足度を促進し、A, B, E 類型は不満を促進した。C, D 類型はA, B, E 類型と比べて情緒の安定性において、安定であることが共通している。満足度と情緒の安定がかかわるであろうことが示唆される。

以下の4要因については偏相関係数の有意性はみられなかったが、食のファッション化などのことがいわれている状況のなかで、満足度とかかわる女子学生の食生活に対する意識や態度の傾向としては興味深いと考えられる。

なお、経済と健康が要因に含まれていない。経済面では食費について設問したが結果の概観で述べたとおり、寮生は全員同じ回答であり、自宅生は無回答であったなどの結果から、今後の設問については経済に対する意識などもあわせて検討していきたい。また健康については「よい」と「わるい」の2項選択肢であったことも含めて、実態に即したきめ細かな質問項目を工夫していきたい。さらに味覚識別力については、18～21歳の女子学生を対象にしたことによることも考えられる。これらの点

女子学生の食生活満足度に及ぼす要因

に関しては、今後さらに検討して、満足度に影響する要因のよりよいモデルを構築し、食生活のあり方を研究していきたい。

4. 要 約

食生活の満足度とそれに影響する要因を明らかにするために女子学生を対象に調査を行い、その結果を林の数量化Ⅱ類を用い分析した。

(1) 食生活の満足度を居住形態別に比較すると下宿生は自宅生および寮生に比べて満足度が低かった。

(2) 食生活満足度に影響する第一の要因は食品摂取状況で、朝食をきちんと食べていることや、多様な食品を摂取していることなどが満足度を促進した。第二は居住形態で、自宅と寮が満足度を促進した。第三の要因では料理を作るのが好きであることが満足度を促進した。

(3) 食生活満足度と健康や経済などとの関係については今後さらに検討していきたい。

本研究の一部は昭和63年度日本家政学会第40回大会において発表した。

終わりに、調査にご協力いただきました山口女子大学家政学部給食管理研究室昭和61年度専攻学生の北村朱

美、木村文子、国近悦子、中村涼子の諸氏に深謝いたします。

引 用 文 献

- 1) 石垣志津子: 栄養誌, 37, 139 (1979)
- 2) 阿部登茂子: 同志社女大学術研究年報, 35, 153 (1984)
- 3) 白木まさ子, 岩崎奈穂美: 栄養誌, 44, 257 (1986)
- 4) 河野昭子: 家政誌, 38, 759 (1987)
- 5) 福谷洋子, 木村友子, 加賀谷みえ子, 小川安子: 家政誌, 38, 145 (1987)
- 6) 原田まつ子: 栄養誌, 46, 175 (1988)
- 7) 富田絹子, 西田美枝子, 山下慶子, 升元慶子: 栄養誌, 46, 259 (1988)
- 8) 辻岡美延: 新性格検査法, 竹井機器工業, 東京, 21 (1965)
- 9) 田中 豊, 垂水共之, 脇本和昌: パソコン統計解析ハンドブック (多変量解析編), 共立出版, 東京, 270 (1986)
- 10) 厚生省公衆衛生局栄養課編: 昭和55年版国民栄養の現状, 第一出版, 東京, 25 (1980)
- 11) 厚生省公衆衛生局栄養課編: 昭和55年版国民栄養の現状, 第一出版, 東京, 145 (1980)
- 12) 厚生省保健医療局健康増進栄養課編: 昭和62年版国民栄養の現状, 第一出版, 東京, 125 (1987)
- 13) 足立蓉子: 栄養誌, 46, 273 (1988)